

白山ふるさと文学賞

第十四回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生3・4年 作文の部 最優秀賞

「いつも食べているお米の大切さ」

松任小学校三年

八田^{はった}

岬^{みさき}

わたしは毎日かならずお米を食べています。テレビでお米が高くなったり買いたくても売り切れで買うことができなかったり、何どもいろいろなニュースでながれているのを見ました。お買い物へ行っても本当にお米が売っていない所も見だし、お米があった日でもお母さんやほかのお客さんがお米の前ですつとどうしようかなとなやんでいるすがたも見ました。でも、毎日きゅう食でもお米が食べられるし、お家でもお米を食べています。

「お米はパワーがつくからしつかり食べんなよ。まだほしかったらおかわりしてね。」

とお母さんが言っていました。お米がないのに食べてもいいのかなとふしぎに思いました。そんなときに、おじいちゃんのお友だちが、

「田んぼで田植えしてみんか？」

と声をかけてくれました。前いねかりはしたことがあったけど、田植えはしたことがなかったし、もつとお米のことを知りたいなと思ったので、田植えにまぜてもらうことにしました。

まず、田んぼに入るときはぜったいによごれてもいいふくとくつ下できてねと言われました。田んぼにとうちやくすると、たくさんの人がいて、みんなで田植えのやり方のお話を聞きました。わたしはどうやって田植えをするのか知らなかったけれど、きかいを使って植えるのと手で植えるのと二つやり方があると知りしました。昔の人はきかいがなかったので、全部手で植えていたそうです。四角い線を田んぼに引いて、線と線がかさなっている所になえを三つずつ植えることを教えてもらいました。

田植えのやり方を聞いて、いよいよはじめての田んぼに入るときがきました。ながぐつのまま田んぼに入ると足がぬけなくなつて動けなくなると教えてもらったので、くつ下のままそおつと入りました。足を入れると、ぬるつとしていて足がぬけなくなりました。気をつけないと顔からころびそうになったり、手を入れてもぬけなくなつたりし

て植えるのがとてもむずかしかったです。さいしょは気持ちがわるかったけど、ずつと田んぼに入っているとだんだん気持ちよくなつてきて、ねん土を水で少しぬらしたのをさわっている感じがして、ワクワクがとまりませんでした。

なかなか先にすすめなくて、きれいに植えるだけでも頭も力もつかいました。とちゅうでこしも足もいたくて、休けいもできないし、田植えをするのはとても大へんな仕事なんだとわかりました。こんなに大へんな田植えをしても、じつさいにとれるお米はそんなに多くないよとも教えてもらいました。お米を作ることがこんなにも大へんなことなんだと田植えをして知ることができたので、大事にごはんを食べようとも思いました。

お米のまめちしきも教えてもらいました。ずつと昔から日本にお米があつたけれど、だれでも白いごはんをおなかいっぱいに食べられるようになったのはおじいちゃんやおばあちゃんが生まれたころぐらいいからだったらしいです。今、わたしもお米をいつもおなかいっぱいに食べることができて、すごくしあわせです。

日本で一番お米がしゅうかくできるのはいがた県だそうです。わたしのすんでいる石川県には田んぼがたくさんあるけど、いがた県にもたくさん田んぼがあるんだなと気づきました。でも石川県が一番じゃなくてすこしくやしいです。

おちやわん一ぱいにはお米が三千つぶも入っていることも教えてもらいました。そんなにたくさんもお米のつぶが入っているとおなかがいっぱいになるはずなのに、食べてもまだたりないぐらいなので、三千つぶも入っていると聞いてびっくりしました。

はじめて田植えをさせてもらつて、今まであたりまえに食べていたお米がこんなにも大へんなさきょうをして作られているとわかりました。お米は田植えをしてからすくすく大きくなって、しゅうかくするまでにまだまだたくさん時間がかかります。また田植えをお手つ

だいて、農家の人に少しでも休んでもらいたいです。みんなで植えたお米をみんなでおいしいねとえ顔で食べられたらすごくしあわせな気持ちになれそうです。

教えてもらったお米のまめちしきをお友だちやいろんな人につたえて、もっとお米のことを知ってもらいたいです。そして、お米はとても大事な食べ物だと広めたいです。お米を作る人がすくなくなってきたことも知ったので、田植えやいねかりをしてみてすこしでもお米を作ってみたいなと思ってくれる人がふえるといいなと思います。ありがとうの気持ちをわすれずにわたしもたくさんお米を食べて、農家の人がおいしいお米をがんばって作ってよかったなとえ顔になってくれるとうれしいなと思います。

